

タイトル：京都府立舞鶴支援学校で「国際茶会」の事前授業を実施！

こんにちは！きょうとまるごとお茶の博覧会、学生プロジェクトの京都府立大学3回生・絹田です。

4月28日(月)、京都府立舞鶴支援学校にて「国際茶会」の一環として、事前授業が行われました。

講師は、有斐斎弘道館代表理事であり、立命館大学食マネジメント学部教授でもある、太田^{とある}達先生です。

今回はこの事前授業の様子をレポートさせていただきます。

まずは太田先生のお話からはじまります。

「国際茶会」とは、大阪・関西万博を契機として開催されている「きょうとまるごとお茶の博覧会」の取組のひとつです。

京都府内の児童・生徒たちが交流国のことを学んで、その文化や風習などを取り入れたお茶会を開催し、その国の方々をもてなします。

太田先生は、交流する相手国のことだけでなく、同時に地元のことを学び、自分たちのことを相手に伝えて交流することも重要であると考えておられます。

太田先生から生徒たちに「舞鶴の名産品はなんでしょう？」と質問が投げかけられると、「万願寺とうがらし！」と返答がありました。



このように生徒たちの反応が良く、太田先生と生徒たちのやりとりが活発なのが印象的でした。

ほかに、和菓子の絵や銘がかかれた太田先生のアイデア帳や、太田先生が昔、万博に75回も訪れたお話に生徒たちは興味津々。

万博に際して太田先生が考えた和菓子のデザインの紹介もありました。万博の公式キャラクター「ミャクミャク」の色味と、平和の象徴であるハトのモチーフを取り入れたそうです。



太田先生は、ほかにもクリスマス茶会や仮装茶会など、これまでにひらかれた奇想天外なお茶会を紹介しながら、自由に楽しんでおもてなしをすること、交流することの大切さを伝えておられました。

そして、いよいよ生徒たちがお茶を点てる体験をします。

私たちはお茶碗やお菓子などを運ぶお手伝いをし、生徒たちにお点前のしかたを教えました。

生徒たちはわいわいとした雰囲気の中、たがいに茶を点てあって楽しんでいる様子でした。



お菓子はやはり、太田先生が考案されたものです。私たちもいただいたのですが、山芋の入った軽羹と、蒸し羊羹、ごろっとした栗がマッチしたお菓子でした。



最後には、生徒たちが支援学校の先生たちにもお茶を点てることに。先生たちも嬉しそうに、お茶とお菓子を味わっていました。

太田先生の授業は、生徒たちの心をしっかりとつかんでいました。皆さんお茶の世界へ素敵な一歩を踏み出されたのではないかと思います。



太田先生、舞鶴支援学校の先生、生徒の皆さん、お世話になりました！お疲れさまでした。